

し、泣き声を小さくしようと努めながら、「僕が折角作ったのに壊したらだめ」と抗議しはじめた。Cはちよつと笑いかけて私の目から、自分の正しいことを認めてくれているのを感じ、またいくら自分が正しくとも手を挙げ相手を殴ったり泣くことはよくないこともとつさに悟ったのである。Dも私の目に気がついた。そして積木を徐々にもとへ戻そうとしかけた。皆の心にも、すでに理解されているのが見えた頃に近づいて話合えば、Dは「ごめん」といながら積木を返して、Cの作った自動車に乗った。その時、もうCは笑い顔になって自動車の運転に気をとられはじめている。何事も泣くことでしか表現出来なかったCに、泣いた時は構わずにいて元気な時にいっしょに遊び、話したりしてその時のCがいい子であるのをわからせていく中に、Cは次第に泣きじわが消え笑顔が多くなつていき嬉しく感じないでいられた。子どもにとっては一番欲しい、明かるさ、  
一時的な不満や欲求は、同じように一時

的な方法で解決出来るが、固定されかけている性格を良く導こうとするときは、よほどの忍耐と、子どもからも信頼された正しい愛情をもって接しなければなかなかかむずかしいことである。それでもなお、教師としての立場の限界を知らざれば成功しないこともあり、家庭の協力が重要な役割をもっていることを痛感、家庭の人たちにも認識していただきたいと願わずにはいられない。  
(大阪・梅花幼稚園)

### C 落着かない子ども

ここに、二つの「落着かない子ども」の例が掲げられている。A君の場合には、子どもの遊びに対しておとなが干渉しすぎ、熱中して遊ぶ暇がない。B君の場合は、家庭内で人間関係が不安定である。このような子どもに対する指導上の留意点は自らに明きらかである。

## 落着かない

### 子どもの指導

久保田敦子

A君は、ある程度自分が中心になって何もしなければ、すぐに他の子どものやっている事をかきまわして、「こわしてしまふ。しかしリーダー」としてまとめることは出来ない。遊びや仕事に長い時間とりつけずました仕事や遊びをしていても他の事に気がちりそのものに熱中出来なかった。家庭では祖母が長男であるのでかわいがり、それと同時にする事なす事に口を出し、母親も祖母の手前おとなしくさせようとうるさく言うので一つのものにうちこめない子どもになつてしまったらしい。それで何か熱中して出来るものをさがしてA君の遊びをその熱中出来るもののうちこませた。積木の中でもいろいろ組合わせて創造性のあるもので「うちこみ積木」であった。これに熱中している時には何もいわずそつとそのまま

にしておき、家庭においても一つのものと  
とりくんでいるときにはじやまを入れない  
よう協力していただいた。特に祖母に口を  
出さないよう、母親にもあまり注意をあた  
えず、はげますようにと再三お願いしたと  
ころ、祖母の手前あまり実行出来ないとの  
ことであつたが、一年前に祖母が死亡し、  
母親の思うようになれてからは、よく協力  
してくださり、落着きのなさも前ほどでな  
く、やらなくてはならない仕事は最後まで  
するようになつた。リーダー的な傾向を伸  
ばしまとめるまではまだ行かないが、やろ  
うとみんなをひっぱって行くようになって  
来た。

B君は、初めは非常な勢いでそのものに入  
つてくるが、それがすぐに消えてしまい  
他のものに移っていくので、一つのを  
じっくりと出来なかつた。入園当初は部屋  
の中に入つてみんなといっしょに出来ず、  
外に出てとびまわつて遊んでいたりした。  
それがだんだんに部屋で絵をかくようにな  
つたが、ちょっとかいて、他の遊びをちょ  
こちょとしました続きの絵に移るといふ様

子で絵に集中出来なかつた。家庭の様子を  
うかがうと、商店のために人の出入りがは  
げしいのと、やとっている人が大勢でいっ  
しょに住んでいるとのこと、もう一つはな  
かなか母親が話したがらなかつたのである  
が、大分後に父親が下の子どもをかわいが  
り、けんかも結果だけをみてすぐに叱ると  
いうことを聞いた。このようなことから母  
親がかわいそうだというので玩具などほし  
いものを与えてしまつていたので、徐々に  
与えるものを少なくしていき、それと同時  
に父親の偏愛もおおしていただくよう、家  
庭に行き父親と話合つたり、幼稚園の状態  
を見ていただいたりして、精神的な不安定  
をなおすようにした。かたよつていた愛情  
を是正すべく私がかわつて幼稚園でひざに  
だいてしゃべつたり、家に行つて遊んだり  
いっしょに食事をしたりしたわけであつ  
た。そのときに、動物など生きものが好き  
だということからかめの世話を頼んだり、  
花の世話を頼んだりしていた。ちよつとし  
た事でも大きくとりあげ認めてあげてき  
た。もう一つの原因である家と店がいっつ

よであることは母親も入園前から感じてい  
たので、すぐにかえた。二年たった今、や  
らなければならぬときには一応ついでに  
るが、ちよつとしたことで落着きがなくな  
りやすい様子がまだみられる。

(東京・感応幼稚園)

#### D 友だちと遊べない子ども

幼稚園に入園するまで、友だちと遊  
んだ経験のない場合、子どもは友だち  
と遊ぶたのしさを知らず、遊ぶ技術を  
知らず、手も足もでない。ここに掲げ  
る例は、このような子どもに、徐々に  
友だちと身体的にふれる経験をさせ、  
そして幼稚園で楽しくする経験をもた  
せて次第に友だち遊びの中にひきこん  
でいる。最後には、子どもにきつい態  
度で接して、子どもの幼稚園生活以外  
への逃げ路を断つことによつて成功し  
ているが、これも、そこに至るまでの  
前段階の指導があつてはじめて成功し

ているのであろう。

## 内向性で、友だちがこわいといった子どもの場合

山 本 光

現在年長組にいるE子は、一昨年四月に年少児として入園した。年少組の一年間を私が担当したのである。ポツテリとふとって、身長は、その組の女児の中で最高であったが、向性検査法の各項目にてらしても明確にわかる内攻性の子どもであった。入園式当日母から聞いたのは耳の病歴があるという身体的なことだけであったが、その性格は入園第二週目の「オシッコの失敗」から急にあらわれた。非常に不安ないやな経験であつたらしく翌朝から見送りに来た母に泣いてはなれなくなつた。

—— おおきいくせに泣いている——このような印象をすぐに園の生活になれてしまつた外向性のいたずらっこに植えつけた。

同じ机の子どもがE子の顔をなでる、髪の毛にさわる、洋服にさわつたりしてもE子はおびえたようにヒイと泣く。泣けば周りの子どもはふしぎなおもしろさかられてまたさわつて泣かす。ことばで言いきかせてもおさまらない状態になつてしまつた。それにこの組は半分が早生まれという赤ちゃんばい賑やかな組であつた。

毎朝母は困つて訴える。「お友だちがさわつていじめるとかなしそうにいます」「入園前のお友だちあそびはどうでしたか」「社宅のアパートがたびたびかわりましたし家より外にはほとんど出ません。おとなりの部屋のお子さんが家に来ると遊びますが、さそわれなければあそびません」と。中耳炎を二、三度したというのも加わつているかも知れないがとにかくずっと静かなひとり遊びや二つ年下の弟とあそんでいたらしい。このような経験しか持つていないE子にとって、われかえる程元気のよい幼稚園の保育室は戦場のようにおそろしく、ふれ合う友だちの手は兇器のように思われたいのも無理ではなかつたのである。

そこでわたくしは、友だちの手や身体にふれる経験をさせるために、リズムの「むすんでひらいて」をするとき——その手を……お友だちの手とつなぎましょう——その手を……お友だちのあたまにのせましよう——その手を……お友だちのほっぺに……つるつるほっぺをなでてあげましょう——というように毎日友だちのからだにふれるように試みた。またピアノに合わせて行進するとき二人組になつたり、三人組になつたり手をつながせて、リズム運動のころよきに、友だちのふれ合いをとり入れた。子どもたちはみんな大よろこびでおもしろがつたがE子はこわごわである。うっかり手をつなぐ相手がいなくなつたりするとすぐに泣く。とにかく余り笑顔を見せず毎朝泣きわめいた。必らず母に送つて来てもらい、はなれるときは一さわぎをする。

E子の仕事は几帳面で、製作の時など、こちらの注意をよく聞いて少しも間違えないです。色のぬり方も非常にいいねいで配色もよく出来上つたものがとても美しい。そういう時は、出来るだけみんなの前では